

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	④-2	実施計画番号	118	事業開始年度	H25
事務事業名	高島屋柏店での催事開催			事業終了年度	
担当課名	とわだ産品販売戦略課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	市の貴重な地域資源である「十和田湖ひめます」をメインに、市単独のフェアを千葉県柏市にある「高島屋柏店」において、平成25年度から1週間を期間として開催している。同店舗には、十和田市出身の食品総括担当者が存在したこと、また、市産品ならびに観光の魅力を強力にアピールする中で、同店の催事企画部門から高く評価されたことが開催の実現に繋がった。				
事務事業の目的	良質で豊富な十和田産品のブランド力の向上や販路拡大により、生産者や事業者所得の向上、並びに観光客の誘客促進を図る。				
実施状況	十和田湖ひめますはもとより、十和田おいらせみナール野菜や十和田ガーリックポーク、十和田湖和牛、加工品等をPR・販売している。高島屋常備ブランドやオンラインショップなどへの採用も検討されており、市産品の定番化の可能性が高まっている。また、活十和田湖ひめますの水槽展示や十和田湖・奥入瀬溪流の写真展により、観光面における関心を高めている。ステージイベントでは、市長はじめ市の関係者がトップセールスを行っている。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1.5	1.5	1.5
	活動日数(日)	118	118	118
	人件費(千円)	6,372	6,372	6,372
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	パートタイマー	人件費(千円)	0	0

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	2,574	2,998	4,395

【指標】

活動指標	活動指標名①		催事販売額			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			千円	6,177	5,424	6,500
	活動指標名②					
成果指標	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			社数			
			目標値	10	12	15
			実績値	12	13	
			達成度(%)	120%	108%	
	成果指標名②		出品品目数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			品			
			目標値	13	15	18
			実績値	15	16	
		達成度(%)	115%	107%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 特になし。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 企画力をアップさせて集客に繋げる必要がある。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 出展事業者との調整、全体企画や開催期間中のステージイベント、観光面でのPR等において、現状では行政主導が効率的である。将来的には、出展事業者が協同体等を組織するなど、自立自走型が理想である。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 特になし。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択)

⇒

さらに重点化を図る

方向性の理由

- ・販売額も堅調であり、首都圏での十和田市及び市産品の認知度向上ならびに販売促進を強化するための方策として有効であること。
- ・事業者が「チーム十和田」の意識で出展に臨んでいること。

今後の具体的な取組方策と狙う効果

市産品のブランド力を高めて販売促進に繋げ、市の経済効果を向上させる。また、高島屋柏店のフェアを契機に、首都圏大手百貨店におけるフェアの機会の増を目指す。